

「もっと本が読みたい」



書き損じハガキや 未使用切手を集めて、 ラオスの子どもたちに 学校図書室を 贈りませんか？

私たちが1982年に活動を始めた当時、ラオスの首都ヴィエンチャンには国立図書館と国営書店がただけでした。子どもたちの多くは教科書以外の本に触れる機会はありません。こうした状況は、今もほとんど変わりません。

以前出会った縫製の職業訓練を受ける若い女性を思い出します。彼女は教わったことをノートに書き留めることができませんでした。小学校で習った読み書きを忘れてしまっていたのです。生活を少しでも良くするため新しい知識や技術を身につけたいと思っても、文字の読み書きができないと機会を十分に活かすことができません。

私たちは、ラオス語の本の出版を応援し、学校図書室の開設をお手伝いして、ラオスの子どもたちが本と出会い、読書を通して世界を広げ、自分を豊かに表現する力を持って欲しいと願いつつ、読書推進活動を行っています。

このたび、ラオスの子どもたちにさらに学校図書室を贈ろうと、「書き損じハガキ500枚持ち寄りキャンペーン」を行うことにいたしました。ラオスの子どもたちの成長のため、是非このキャンペーンにご参加ください。

(認定) 特定非営利活動法人ラオスのこども
代表 チャンタソン インタヴォン

書き損じハガキ 500枚 持ち寄りキャンペーンのしくみ



2021年11月～
2022年2月まで



3万円分の書き損じハガキや未使用切手を集めて、当会宛に送っていただきます。(書き損じハガキでは約500枚)

お送りいただいたハガキや切手を、当会が郵便局や金券ショップ等で交換し、現金化します。

その現金を、当会が実施するラオスの学校図書室開設支援事業の資金として用います。

目標

学校図書室：
参加団体： **2校**
20団体 →



1団体あたり3万円×20団体=60万円
学校1校の図書室開設費用=30万円

1校分の学校図書室開設支援事業の予算は約30万円です。
20団体が参加すると、ラオスの学校2校に図書室が開設できます。

ご報告



ニュースレターなど

参加した団体には、当会の機関紙などを通して学校図書室開設事業のご報告をします。ご希望に応じて、対面やオンラインで報告することも可能です(国際理解教育の出前授業や勉強会の講師派遣も承っております)。

ご参加の皆様をお願いするのはこの3つです。

- 1 キャンペーンへの参加申し込みをする。
- 2 団体内でのハガキ・切手回収のアナウンス、参加呼びかけ。
- 3 回収したハガキ・切手を金額ごとに集計し、当会の東京事務所に送付。



申し込み方法

申込書もしくはGoogleフォームで
2021年10月31日までに申し込みください。

Googleフォーム：<https://forms.gle/XJX8oCD9dKWsaadDAA>

(認定)特定非営利活動法人ラオスのこども(担当: 岡田・伊藤)

〒143-0025 東京都大田区南馬込 6-29-12, 303

Mobile: 090-9641-7027 Tel/Fax: 03-3755-1603

Email: alctk@deknoylao.net HP: <http://www.deknoylao.net/>

Facebook: <https://www.facebook.com/deknoylao/>





ラオスとは

ラオス人民民主共和国は東南アジア大陸部に位置し、同じくASEANに属するタイやベトナム、カンボジアなどの他、中国とも国境を接しています。内陸国ということもあり、途上国の中でも後発開発途上国のひとつ。人口は700万人ほどで国土面積は日本の本州と同じくらいです。

ベトナム戦争時代に受けた爆撃の不発弾が多く残る地域もあり、一人当たりの非爆弾量は世界で一番多いともいわれます。ラオス語が公用語ですが、多民族国家であり、約50民族が生活していて、ラオス語を母語としない人々もいます。メコン川周辺は首都ヴィエンチャンを中心に開発が進んでいて、内陸部との格差は広がっています。

「ラオスのこども」とは

ラオスでは植民地時代の影響や経済的な問題から、教育環境の整備がまだまだ不十分なところが多く、書店や図書館など本と触れ合う場所がほとんどありません。子ども用の本も少なく、地方などでは家庭で読書をする習慣もないのです。

「ラオスのこども」は、これまで約40年間にわたり、ラオス人絵本作家の育成や絵本の出版、学校図書館の開設支援などを通じ、読書推進活動を続けてきました。もちろん図書館を作って終わりではありません。運営をしていく教員や図書委員となる生徒を育成し、授業などでも図書館を積極的に活用してもらうなど、持続させていくこと、そして最終的には現地の教員や生徒たちだけで運営していけるようになることを目指しています。



読書から得られるもの

本を読むことで子どもたちが得られるものはたくさんあります。識字以外にも、想像力や協調性、感情をコントロールする力などを身につけることができます。登場人物に感情移入し、仲間と協力すること、人が喜ぶこと、嫌がることなども絵本などから学ぶことができます。また、能力に限らず、読書は自分が住む地域の外の世界の文化や価値観に触れる機会にもなります。

「おおきなかぶ」という絵本を読んだことがある人は多いのではないのでしょうか。この本はもともとロシアの昔ばなしで、登場人物の絵もロシア人のようにも見えます。いろんな人、いろんな動物がいて力を合わせる事ができるという趣旨のお話です。子どもたちが未来を自ら自由に選択するためには、外の世界を知ることひとつの大きな要素になるでしょう。

知らなければ選ぶことはできないのです。子どもたちは、様々なジャンルの本から自分が興味を持てるものを探して、未来を切り開いていくことができます。

お問い合わせ

(認定)特定非営利活動法人ラオスのこども(担当:岡田・伊藤)

〒143-0025 東京都大田区南馬込 6-29-12-303

Mobile: 090-9641-7027 Tel/Fax: 03-3755-1603

Email: alctk@deknoylao.net

HP: <http://www.deknoylao.net> Facebook: <https://www.facebook.com/deknoylao/>

ホームページ
はこちらを
ご覧ください →

